

一般財団法人 日本栄養実践科学戦略機構 設立趣意
— 栄養の力で人びとを健康に、幸せにするために —

栄養は食を命に結びます。

栄養は健康を生み培う力です。

1978年、国際社会はこのように宣言（Declaration of Alma-Ata 1978）しました。

健康 — それは、身体と心そして社会生活のうえでの全面的なよき生を享受しているさまをいうのであって、ただ単に病に罹っていない、あるいは、病弱でない状態をいうのではない。健康は基本的人権であり、能う限り最上の水準の健康を人びとが手にできるようにすることは、あらゆる国家社会の掲げる目標のうちでも最も重要なものの一つである。それを現実のものとするには、独り医療分野のみならず、広く社会及び経済の諸分野が立ち上がらなければならない。

健康が基本的人権であるなら、栄養は健康の根源をなす人権です。すべての人に、適切な栄養を享受できる権利が保障されなければなりません。

地球上には、食糧の社会的で絶対的な欠乏のもたらす飢餓に苦しむたくさんの人びとがいます。それだけではありません。世界の国や地域のいたるところで、一見すると互いに対照的でありながら混淆する、二つの形態の栄養不良（malnutrition）の併存現象が起きています。一つは、過剰（又は不均衡）栄養による栄養不良です。過体重、肥満、不適切な食事摂取による非感染性疾患（NCDs）として現れます。もう一つは、過小栄養（低栄養）による栄養不良です。衰弱、発育不全、微量栄養素欠乏症などとして現れます。この二つの栄養不良は、人びとの健康の保持増進と社会の維持発展を阻害する重しとなっています。

「2030年までに、あらゆる形態の栄養不良をなくす」(SDG's, GOAL2, Target2.2)。それは、陰しく困難を極めることではあっても決して達成不能ではありません。

栄養不良をなくす闘い — War on Malnutrition — に勝つうえで欠かせないものがあります。その第一は、包括的で大胆な戦略と周到な戦術。第二は、SDG'sの要請に則って整えられた物的及び制度的な資源。

そして、欠かせないものの第三は、栄養実践科学（**NUTRITIONAL PRACTICAL SCIENCE**; NUPS）を手に、人びとの支援をとおして栄養不良をなくす闘いを担う専門職です。

栄養実践科学とは、食を命（健康）に結ぶ栄養の科学と、食を命に結ぶ人びとの現実の栄養の営みを支援する科学とを、高度に統合させた学際的で実践的な科学のことをいいます。栄養実践科学には、これを人びとの命に役立てるための専門的技術が伴います。

私たちは、人生のさまざまな場面で健康と幸せを願って食に臨む人びとの傍らに、栄養実践科学を駆使して、常にしっかりと人びとを支援する専門職を配置したいと考えます。

私たちは、この第三、すなわち、栄養実践科学を身につけて人びとに奉仕するよりよい質の専門職をより多く生み出す事業を主軸として、第一の戦略と戦術、及び、第二の物的及び制度的な資源の整備確立及び拡充に資する事業を行うために、下記の要領の一般財団法人 日本栄養実践科学戦略機構を設立することにしました。

記

I 法人の目的 本法人は、栄養実践科学の専門的かつ戦略的な教育、研究及び技術開発と、その成果の発信交流及び共有基盤の構築及び運営を行うことにより、保健医療福祉栄養の発展と拡充、並びに国内外の公衆栄養の普遍的で持続的な向上に寄与することを目的とします。

II 法人の事業 本法人は、法人の目的を達成するため、次の事業を行います。

- (1) 栄養実践科学に係る専門職の教育及び研修
- (2) 栄養実践科学に係る戦略的調査研究及び同調査研究助成
- (3) 栄養実践科学に基づく栄養食事療法その他の保健医療福祉等に係る栄養の指導及び管理に関する技術開発
- (4) 栄養実践科学に係る国際的栄養専門職の人材育成支援
- (5) 上記各号の事業成果の発信交流及び共有基盤の構築及び運営
- (6) その他本法人の目的を達成するために必要な事業

栄養には、その力で、人びとを健康に、幸せにする壮大な使命が託されています。今、そして、さらに稔りある明日のために、栄養の力を引き出すのは私たちです。

2023年11月28日

一般財団法人 日本栄養実践科学戦略機構 設立呼びかけ人代表

中 村 丁 次